

安吾賞とは生きざり賞である。



安
吾
賞

第七回

新潟市

Ango
AWARDS 7TH

日本文化私観

安吾の覚悟

どうしても書かねばならぬこと、書く必要のあること、ただ、そのやむべからざる必要にのみ応じて、書きつくされなければならぬ。



若松孝二について

佐藤忠男（映画評論家・日本映画大学学長）

若松孝二は独立独歩で日本映画界の一方の旗頭となった監督である。宮城県立の農業高校を中退して上京し、映画の仕事はロケーション撮影の通行人の整理からはじめ、1960年代はじめにいわゆるピンク映画が始まったときに自分で買って出て監督をやり、たちまち注目された。当時の若者たちの欲求不満や混乱を強烈に描き込んだからである。その作品をベルリン国際映画祭が日本代表に選んで上映したとき、日本の大手映画会社から派遣された代表団はこれを国辱的な作品だと言って、それを選んだ映画祭当局に抗議した。このとき若松孝二は、今に見ていろ！と心に誓ったはずである。

桜の森の満開の下

安吾の純情

彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、女の姿は揺ぎ消えてただ幾つかの花びらになっていました。そして、その花びらを揺ぎ分けようとした彼の手の身も延した時にはもはや消えていました。あとに花びらと、冷めたい虚空がはりつめていたばかりでした。

墮落論

安吾の喝

墮ちる道を墮ちざることによって、自分自身を発見し、救わなければならぬ。政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。



坂口安吾撮影：中村正也



新潟市長 篠田 昭

第7回安吾賞は、映画監督の故・若松孝二さんに決定しました。

若松さんは受賞内定後、誠に残念ながら不慮の事故でお亡くなりになりました。突然の訃報に大変驚き、ショックを受けましたが、そのような状況であつても若松さんにお受けいただきたいという選考委員の皆さまの一致したお考えや、若松さんのご遺族のご賛同もいただきましたので、そのまま若松さんにお贈りするこ

ととなりました。

若松さんは、その衝撃的な作風や、豪快な演出、反体制的な視点で描く手法でヒット作を量産し、幅広い世代から支持されました。また、多くの映画人が若松さんに師事するなど、日本映画界に大きな影響を与えてくれました。近年の作品が相次いで国際映画祭に招待されるなど、国際的にも高く評価されています。若松さんの映画に対する強い信念と情熱に満ちた生き方は、まさに挑戦者魂にあふれ、私たちに勇気や元気を与えてくれるという点で、安吾賞にふさわしいと思います。ご逝去は残念でなりません。その生き様に敬意を表し、安吾賞をお贈りするとともに、ご冥福をお祈りしたいと思います。また、新潟市にゆかりのあ

る方にお贈りする新潟市特別賞は、写真家の天野尚さんを選ばせていただきました。

天野さんは、1975年から、アマゾン、ボルネオ、西アフリカの世界三大雨林や日本の原生林を訪れ、「手つかずの自然」をテーマに大判カメラを用いた撮影に取り組んでこられました。解像度の高い大判フィルムを用い、自然のありのままの姿を克明に記録した生体風景写真は他に類がなく、国内外で高い評価を得ています。近年では、豊富な自然体験をもとにした講演活動や写真展を通して、環境保全の重要性を訴えていらっしゃいます。新潟市はこれからも反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する「現代の安吾」に光を当て、安吾賞を広く発信してまいります。



選考委員長 三枝成彰

〈安吾賞の選考を終えて〉

このたび、第7回安吾賞の選考が終わりました。今回も県の内外より、ほんとうに多数のご応募をいただきました。

選考の結果、今回の受賞者は映画監督の若松孝二さんに決定いたしました。若松さんは1963年のデビュー以降、映画監督として、つねに既成の枠にとられない、斬新な映画作りをしてこられました。60年代に若松プロダクションを設立されて以降、大手の映画

会社では手がけられないような題材を積極的に取り上げる姿はまさにインディペンデント映画の雄であり、その作品は常に大きな期待をもって迎えられる、多くの観客と作り手に刺激を与える存在であるとともに、若松さんは長年にわたって日本映画界を牽引するリーダーの人でした。日本のみならず海外でも、その作品は常に注目を浴び、高い評価を獲得されています。惜しくも昨年、監督は急逝されましたが、坂口安吾の反骨精神に通じるその活動に対して安吾賞を贈ることは、ご存命の時に決まっております。ご本人は大変お喜びであつたと聞きました。亡くなられたことはまことに残念ではありますが、受賞をお伝えできただけでも、私たち選考委員は報われる思いであります。ご応募いただきました皆さんに、心より感謝申し上げます。

第7回

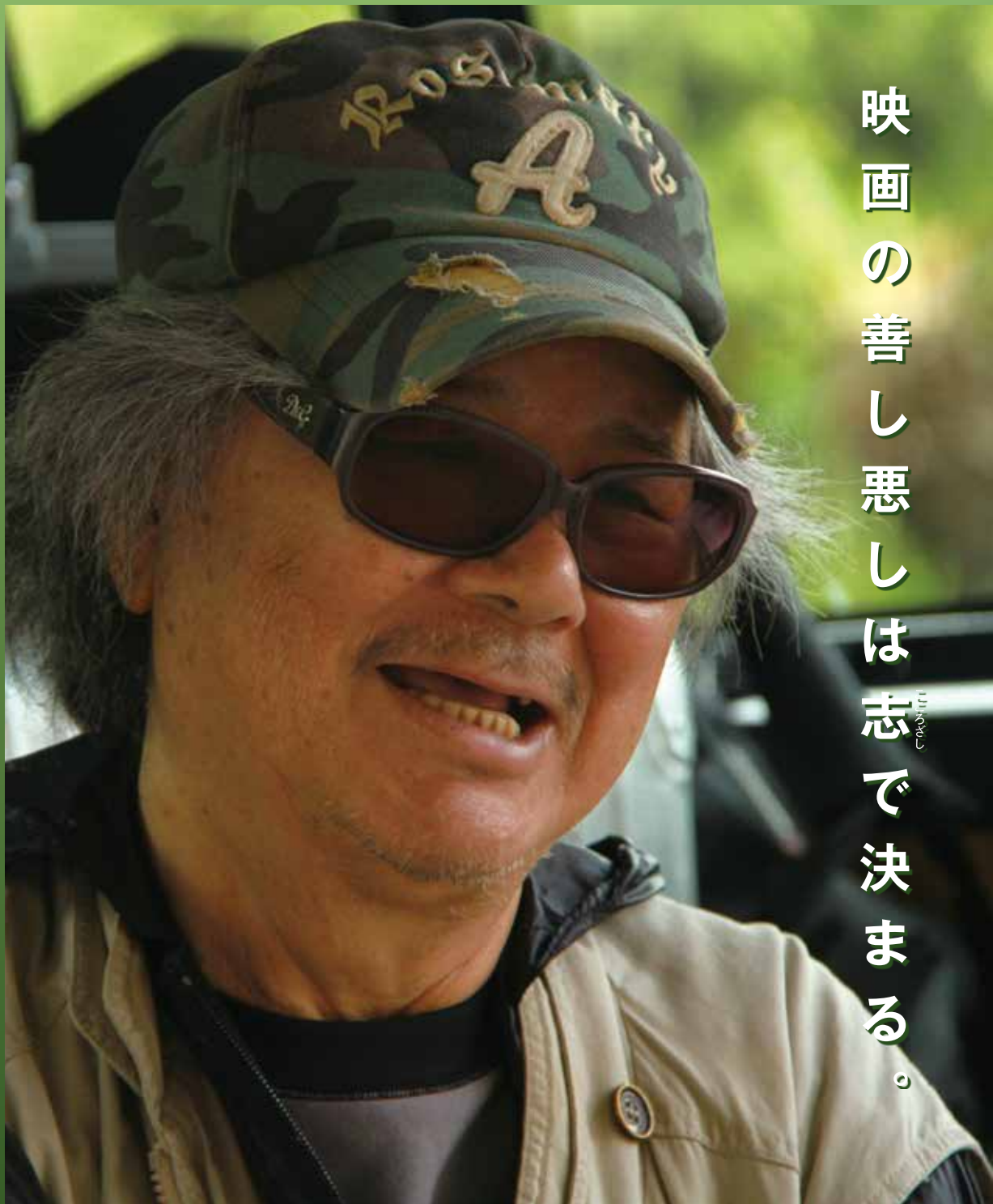
安吾賞

2012

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第7回の安吾賞受賞者として、映画監督、故「若松孝二」氏を選出した。

◎選出後、交通事故により急逝。享年76。

映画の善し悪しは志で決まる。



【略歴】

1936年宮城県生まれ。1963年にピンク映画『甘い罠』で映画監督デビュー。低予算ながらも圧倒的な迫力の映像でピンク映画としては異例の集客力をみせた。以降、『ピンク映画の黒澤明』などと形容されヒット作を量産する。人間の根源的な要素であるエロスと暴力をテーマに据えた衝撃的な作風や、強度を持った豪快な演出、意表を突く設定などが特徴。近年の作品では、連合赤軍をテーマにした作品『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程』が、第58回ベルリン国際映画祭にお

いて最優秀アジア映画賞、国際芸術映画評論連盟賞を受賞。『キャタピラー』では、主演の寺島しのぶさんが第60回ベルリン国際映画祭で銀熊賞（最優秀女優賞）を受賞。『11・25自決の日 三島由紀夫と若者たち』が第65回カンヌ国際映画祭に、最新作『千年の愉楽』が第69回ヴェネツィア国際映画祭に正式招待され、世界三大映画祭を制覇。2012年10月17日、交通事故により急逝。享年76。
<http://www.wakamatsukoji.org/>

Anjo AWARDS 7TH

安吾賞

映画監督

若松孝二

わかまつ・こうじ

「墮落論」という感覚

僕が、どうして「安吾賞」などという、立派な賞をもらえる事になったのか、見当もつかない。僕が知っているのは「墮落論」くらいなもので、坂口安吾の熱心な読者でもないし、僕自身、文学にまつわる賞を頂けるような文学的な人間でもないと思っっている。

とはいえ、よくわからないながら、安吾の「墮落論」という感覚が、僕にはしつくりくるように感じる。

僕は、人間なんて、そう大層なものじゃないと思っっているし、映画だって、単なる僕のオモチャだと思っっている。何か偉そうな理屈を並べたって、虚しいだけだし、言葉で説明できないから、僕は映像で遊ぶんだ。

「当たり前」を疑ってみる

右向け右と言われたら、左を向きたくなるし、みんなが当たり前だと思っっていることにも、「ちよつと待てよ」と言いたくなる。自分の頭で考える。僕の頭では、そう難しい事は考えられなくても、それでも考えてみる。

そうやって考えていると、目の前に見える風景が、本当は違うんじゃないかと、みんな自分が生きていて思っっているけど実は死んでいるんじゃないかと、そんな不思議な考えが次々と思いつかんてくるのだ。

そんな僕に、安吾賞を下さるとい

若松孝二という男

不条理に立ち向かう、不条理の中に美しさを見出そうとする、その手段としての映画。ストーリーの巧妙さや文学的表現を目指すものではないかもしれないが、社会の不条理を分け入ったところに人間の本質が潜んでいることを、若松映画は暴れている。

その強固な姿勢は極めて無頼であり、その作品は危険で強烈なメッセージを放って、生温い私たちの社会を突き刺す。故人となった後も、「映画監督に時効なし」という氏の言葉通り観る人を揺さぶり続けるに違いない。



『千年の愉楽』
撮影風景
©若松プロダクション

『時効なし。』
小出忍・掛川正幸編
2004年ワイズ出版刊



【略歴】

写真家。1954年新潟生まれ。1975年よりアマゾンをはじめとした熱帯雨林を中心に大自然の撮影に取り組んできた。特別に生産された最大8×20インチの超大判フィルムを駆使して自然を克明に、精密に記録した生態風景写真は他に類がなく、国内外で高い評価を得ている。また、豊富な自然体験をいかし、生態系の概念を取り入れた水草レイアウト「ネイチャーアクアリウム」の水景制作を同時に行い、風景写真と水景が相互に関係した独自の芸術性を追求している。2008年にはG8洞爺湖サミット会場に佐渡原始杉の特大

パネル2作品が展示され、国内外のメディアで大きく取り上げられた。また、2012年開業の東京スカイツリータウン・すみだ水族館には、幅7メートルと4メートルの超巨大ネイチャーアクアリウム（水草レイアウト）が設置され好評を博している。近年は写真展や講演活動を通して、国内外で環境保全の重要性を訴えている。世界環境写真家協会会長。
<http://www.amanotakashi.jp/>
<http://www.adana.co.jp/jp/>

Ingo
AWARDS 7TH

新潟市特別賞

写真家

天野尚

あまの・たかし

自然と遊び、自然から学ぶ。



黄金の稲穂（新潟市鑑潟）



アマゾンでの撮影風景



佐渡での撮影風景



「レイアウト水槽」の制作

私は新潟市旧巻町で生まれ育ちました。巻町には山や海など豊かな自然があり、かつては県内最大の潟であった鑑潟もありました。子どものころ、そんな豊かな自然の中で遊ぶことで、知らず知らずのうちに美意識が生まれてきたのだと思います。その経験が現在取り組んでいる生態風景写真やネイチャーアクアリウムの制作に役立ち、今回の賞をいただくことにつながりました。私を育てくれた新潟市の賞をいただくことができ、たいへんうれしく思います。

天野尚



アマゾン眺望



アマゾンの夜明け



鬼踊り（佐渡）

強面である。しかし天野氏の撮る写真には何となく温かな人間味を感じるの、自身がどこか自然と同期しているからではないだろうか。佐渡の「弁慶（ゴブダイ）」も「天然杉」も凍てついた雪原でさえ、写真を目にした途端に惹きつけられるのは、熱くて優しい天野氏の眼を通してある特別な瞬間を切り取っているからだろう。新潟の自然の中で美意識を育まれたと語る天野氏は、心の眼でシャッターを切ることで自然に恩返しをしているのかも知れない。心優しい偉丈夫の今後の作品にも期待が高まるばかりである。

心優しい偉丈夫

若松さん、おめでとう。

そして残念!!

▼瀬戸内寂聴



第3回
安吾賞受賞

若松孝二監督はとても素晴らしい方でいらっしゃったので、お亡くなりになられたのがとても残念でなりません。

ご本人も受賞をととても喜んでいらしたとお聞きしましたので、授賞式を迎えられずご本人も悔しく思われているのではないのでしょうか。

映画監督としてのご功績も大変素晴らしくまさに安吾賞にふさわしい方だと思います。

若松監督のご受賞で、安吾賞にまた重みが増えたと思います。お祝いに駆けつけたいけれど、

▼荒木経惟



第6回
安吾賞受賞

ど、出席できないのが本当に残念です。亡くなっても魂は残っていますので、今日もきつこの席にいらつきますと思えます。若松さま、おめでとうござります。

アラキをアラキーにしたのは、若松孝二さんみたいにアナーキーになりたかったからです。今夜、2丁目であん時のように飲んでさわぎたかったのに、残念!

2012年12月20日受賞者発表会に寄せて

世界が認めた 若松映画

第一章 この男、国際テロリスト。につき

ウィーン国際映画祭へ招待されて	12
ATG作品	15
「天使の記憶」	15
映画館を持っている映画監督	24
シネマスコーレ	24
一円が何百万円に化した	24
肺ガン手術からの生還	27
叛医者	30
誰にも知らせない	34
深作欣二監督の死	34
ガサ入れの現場を撮る	34
赤塚不二夫のやさしさ	41

第7回安吾賞市民交流事業として、世界3大国際映画祭招待作品を上映する映画祭が新潟・市民映画館 シネ・ウインドにて、授賞式の日(2/23)から3月3日まで開催となった。どの作品も監督の鋭い批判精神に貫かれており、ベネチア、ベルリン、カンヌという国際映画祭にて世界の評価を得た。

安吾賞受賞記念 若松孝二 国際映画祭

©若松プロダクション

『時効なし。』
小出忍・掛川正幸編
2004年ワイズ出版刊



『キャタピラー』

2010年(第60回ベルリン国際映画祭招待作品)
出演:寺島しのぶ、大西信満、吉澤健、粕谷佳五、増田恵美 ほか
太平洋戦争で手足も声も失って帰ってきた夫とその妻。2人の苦悩する姿が戦争の愚かさや悲しみを過激に伝える。寺島しのぶが第60回ベルリン国際映画祭最優秀女優賞を獲得。



『千年の愉楽』

2012年(第69回ベネチア国際映画祭招待作品)
出演:寺島しのぶ、佐野史郎、高良健吾、高岡蒼佑、染谷将太 ほか
紀州が生んだ鬼才・中上健次の代表作。路地で生まれ、女たちに愉楽を与え散っていった男たちの、不条理に美しい命の賛歌。助産師・オリュノオバが物語に命を吹き込む。



『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程』

2008年(第58回ベルリン国際映画祭招待作品)
出演:坂井真紀、井浦新、並木愛枝、地曳豪、大西信満 ほか
日本赤軍との関係も深い若松監督が、革命を叫ぶ若者たちの心の深部をえぐる人間ドラマ。革命への夢が悪夢へと至るプロセスが臨場感たっぷりに描かれる。



『11・25 自決の日 三島由紀夫と若者たち』

2011年(第65回カンヌ国際映画祭招待作品)
出演:井浦新、満島真之介、岩間天嗣、永岡佑、鈴之助 ほか
文豪三島由紀夫の衝撃的な自衛隊市ヶ谷駐屯地での自決事件。三島の胸中、「楯の会」の若者たちの姿を追ったドラマ。井浦新が晩年の三島を鬼気迫る演技で魅せる。



安吾賞音信

第7回選考委員会

2012/9/3

全国から推薦があった70余りの個人・団体の中から選考が行われた。宣言書にある「権威におもねらず本質を提示するもの」「自らの信念を貫き挑戦し続けるもの」「日本人に勇気と元気を与えるもの」を選考の基本としながら、白熱した議論が交わされ、第7回安吾賞は若松孝二さんに決まった。

記者会見

2012/11/19

篠田市長と三枝選考委員長、安吾の長男の坂口綱男さんによる記者会見が新潟市で行われた。篠田市長は、10月に不慮の事故により亡くなられた若松さんの訃報に「非常に驚き、ショックを受けたが、若松監督ご本人が受賞を大変喜んでおられたこと、ご遺族からもご賛同いただいたことから、選考委員の方々の同意



急逝直前の2012年10月上旬、第17回釜山国際映画祭でアジア映画人賞受賞の記念に作られた若松監督の手型プレート

受賞者発表会

2012/12/20



左より、篠田昭新潟市長、三枝成彰選考委員長、篠原勝之さん、佐野史郎さん、尾崎宗子さん（監督の三女、若松プロダクション代表）

東京都内のホテルにおいて、出版・報道各社、関係者などを招き、若松監督と親交が深かった俳優の佐野史郎さん、芸術家の篠原勝之さんをゲストに迎え受賞者

発表会を開催した。当日は、若松監督の映画出演者、スタッフも多数駆けつけた。また、第3回受賞者の瀬戸内寂聴さん、第6回受賞者の荒木経惟さんからもメッセージが寄せられた。壇上、佐野さんは「監督が居なくなった気がしない。色々な現場での感情が思い出されて、また監督と飲みたい気分になった。」「受賞をとても喜んでいて。安吾の常識にとらわれず自分で考えろという姿勢は、まさに監督そのもの。」「話し、篠原さんは「アニキのような存在」だったという監督とのエピソードを次々に披露し、思い出を語った。



記者会見：左から坂口綱男氏、篠田昭新潟市長、三枝成彰選考委員長

を得て若松監督に賞をお贈りするこゝとに決定した」と経緯を説明し、「若松監督はその豪快な演出や、反体制的な視点から描く手法で当時の若い世代から圧倒的に支持されるとともに、多くの映画人が師事するなど、日本映画界に大きな影響を与えてきた。社会への怒りを原動力とした映画製作は、一貫して世の中の風潮への疑問を呈するものであり、その作品は人間の本性を捉える迫力があつた。若松監督の映画への強い信念と、情熱あふれる生き方は挑戦者魂に貫かれていた」と選考理由を語った。また、新潟市特別賞について「写真家の天野尚さんにお贈りする。解像度の高い大判フィルムを用い、自然のありのままの姿を克明に記録した写真は他に類がなく、国内外で高い評価を得ている。失われつつある美しい自然を記録し、その大切さを訴え、保全活動に力を注いできた天野さんの活動に敬意を表し、新潟市特別賞を差し上げたい」と述べた。

安吾年譜
明治三十九年（一九〇六）十月二十日、父仁一郎、母アサの五男として新潟市西大畑町に生まれる。（本名・柄五）西堀幼稚園、新潟尋常高等小学校（現新潟小学校）へ進む。大正八年県立新潟中学校（現県立新潟高等学校）入学。この頃から学校にもあまり登校せず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで空と海と風と波と光とを終日眺め思索した。荒蕩たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。
余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう 大正十一年、中学三年生の九月、落第が決定的となり東京の豊山中学校三年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫つたという。大正十四年豊山中学校を卒業。世田谷下北沢の分教場（現代沢小学校）の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。その体験は『風と光と二十の私と』になる。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。
求道者 安吾 大正十五年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教学を讀破、睡眠四時間という厳しい修行生活を一年半続け神経衰弱に陥つたが、それを梵語、バリー語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。
文壇デビュー 昭和六年一月、処女作『木枯の酒倉から』を発表。五月『ふるさと』に寄る讃歌、六月『風博士』を発表、牧野伸一が激賞。七月『黒谷村』を発表、島崎藤村などが賞賛し、新進作家として文壇に認められる。昭和七年の夏、新進女流作家の矢田津世子を知り烈しいプラトニック

- ①若松監督の思い出を語る若松組の主要メンバー佐野史郎さん
- ②在りし日の若松監督の思い出を語る佐野史郎さんと篠原勝之さん
- ③会場を埋め尽くした映画ポスターの数々
- ④最新作『千年の倫楽』特別ポスターは、盟友黒田征太郎さんの手描き作品



アルバム 受賞者発表会点描



出でよ、現代の安吾

ク・ラブに陥り、安吾は懊悩し酒場のマダムなどと同棲するデカダンスな生活を重ね、四年後ようやく彼女と訣別を決意。昭和十三年、新たな決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返して自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（昭和十五）、『木々の精谷の精』（昭和十五）などの新境地をひらく。
小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美 昭和十七年、国粹主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を呑み込むことへの欺瞞を指摘した。
墮ち切るにより真実の救いを発見せよ 昭和二十一年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、四月『墮落論』、六月に『白痴』を発表。この二編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨てた新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『墮落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和二十二年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の禪を洗う女』を発表。
戦う安吾 昭和二十五年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和二十六年国税局と税金滞納、差押えをめぐる『負けレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひどく戦い抜き、同年九月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（昭和二十七年）発表。
急逝 昭和三十年（一九五五）二月十七日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年四十八

安吾賞選考委員



委員長
三枝 成彰
作曲家



副委員長
齋藤 正行
安吾の会世話人代表
新潟・市民映画館シネ・ウインド代表



角川 歴彦
株式会社角川グループホールディングス
取締役会長
株式会社角川書店取締役会長



手塚 眞
ヴィジュアルリスト



三好 一美
日本MITエンタープライズフォーラム
理事・事務局長
パイロ エンタープライズ 代表取締役社長

安吾賞推薦人 (敬称略50音順)

青木 邦雄	(財)東日本鉄道文化財団副理事長
青島 健太	スポーツライター
嵐山 光三郎	作家
安斎 隆	(株)セブン銀行代表取締役会長
稲盛 和夫	京セラ(株)名誉会長/稲盛財団理事長
植村 鞆音	著述業
内田 力	(株)コロナ代表取締役社長
梅原 猛	哲学者
遠藤 尚子	アルビレックスチアリーダーズ・ディレクター
荻野 アンナ	作家/慶應義塾大学教授(文学部)
鎌田 薫	早稲田大学総長
川淵 三郎	(財)日本サッカー協会名誉会長
菊池 明郎	筑摩書房代表取締役会長
北川 正恭	早稲田大学大学院教授
小林 幸子	歌手
佐藤 忠男	映画評論家/日本映画大学学長
佐藤 信秋	参議院議員
関川 夏央	作家
高澤 正樹	新潟放送特別顧問/日本文芸家協会会員
武田 鉄矢	海援隊
田中 里沙	宣伝会議編集室長
檀 太郎	CMプロデューサー/エッセイスト
敦井 榮一	新潟商工会議所会頭
中山 輝也	新潟経済同友会特別幹事
野沢 慎吾	セコム上信越(株)代表取締役会長
服部 幸應	(学)服部学園理事長/服部栄養専門学校校長/ 医学博士/新潟市食と花の総合アドバイザー 桜美林大学教授
早野 透	作家
半藤 一利	小説家
火坂 雅志	(株)ベネッセホールディングス取締役会長
福武 總一郎	作家/法政大学教授
藤沢 周	(株)ミヅマアートギャラリーエグゼクティブディレクター
三瀧 末雄	俳優
三田村 邦彦	作家
村松 友視	岩波書店代表取締役社長
山口 昭男	デザイナー/プロデューサー
山本 寛斎	

安吾賞賛同者 (敬称略50音順)

渥美 千尋	在アイルランド特命全権大使
泉田 裕彦	新潟県知事
内海 桂子	(社)漫才協会名誉会長
ジェームス三木	脚本家
篠田 正浩	映画監督
瀬戸内 寂聴	作家/僧侶
檀 ふみ	女優
福原 義春	(株)資生堂名誉会長
宮田 亮平	東京藝術大学 学長
(株)旺文社	

肩書きは2012年4月1日現在のものです。



第7回 安吾賞授賞式 2013年2月23日 りゅーとぴあ・劇場

■ 授与式(安吾賞・新潟市特別賞)

■ 天野尚スピーチ

■ ゲストトーク、ビデオレター

■ 安吾賞事務局

〒951-8550 新潟市文化政策課
TEL. 025-226-2563 FAX. 025-230-0450
E-mail bunka@city.niigata.lg.jp

■ 安吾賞 URL

<http://www.city.niigata.lg.jp/info/bunka/ango>

■ 坂口安吾デジタルミュージアム URL

<http://www.ango-museum.jp>